学会記事

◎**第3回理事会**（37.8.14　東海原子力クラブにおいて）出席者：藤井会長，岡本副会長，ほか理事8名　議事：1）学術講演連絡委員会設置について　委員長　林　泰造（中央大学教授）2）特別員の増強について。 3）秋のエキスカーション実施について。 4）河川災害に関する水理学のシンポジウムについて。5）第9回橋梁構造工学研究発表会。 6）耐震構造設計研究委員会の設置について。

委員長	岡本　舜三（東　大）		委　員	石井　靖丸（八幡製鉄）	
委　員	沼田　政矩（早　大）			友永　和夫（国　鉄）	
	横田　周平（東京鉄骨）			多田　美朝（　〃　）	
	那須　信治（早　大）			斉藤　迪孝（　〃　）	
	松尾　春雄（九　大）			和仁　達美（　〃　）	
	金井　清（東　大）			河野　通之（　〃　）	
	田原　保二（日本橋梁構造）			柏谷　逸男（　〃　）	
	星埜　和（東　大）			富田　善明（　〃　）	
	最上　武雄（東　大）			松本　文彦（　〃　）	
	村山　朔郎（京　大）			表　俊一郎（東　大）	
	河北　正治（建設省）			根来幸次郎（国　鉄）	
	畑野　正（電　研）				
幹事長	久保慶三郎（東　大）		幹　事	藤原　俊郎（国　鉄）	
幹　事	白石　俊多（白石基礎）			池田　康平（　〃　）	
	倉田　進（運　研）			池田　俊雄（　〃　）	
	上前　行孝（首都高速）			小寺　重郎（　〃　）	
	後藤　尚男（京　大）			松本　嘉司（　〃　）	
	林　聡（運　研）			大山　忠（　〃　）	
	石黒　健（富士製鉄）			鎌田　茂之（　〃　）	
	伊藤　学（東　大）			菅原　操（　〃　）	
	笹沼　充弘（建設省）			割沢　善雄（　〃　）	
	伯野　元彦（東　大）			横山　章（　〃　）	
	松野　操平（道路公団）			杉田　秀夫（　〃　）	
	大久保禎二（首都高速）			渋谷　祥夫（　〃　）	
	浅間　敏雄（国　鉄）			高瀬　徹（　〃　）	
	大地　羊三（　〃　）			石原　研而（東　大）	
	針生　幸治（　〃　）			野口　功（国　鉄）	
	梶田　善（　〃　）				

議事 1～6 までそれぞれ承認になった。7）定款改正について早急に骨子を決めることを話合った。8）委員会委員長，委員委嘱について。

a．土木学会 50 周年記念事業委員会実行委員会

委員長　五十嵐酔三（首都高速道路公団）

b．耐震工学委員会

表　俊一郎（東大震研）を委員に追加

9）その他・第7回水理講演会，第9回海岸工学講演会，第9回橋梁構造工学研究発表会，開催等を承認。

◎**各種委員会**

（1）**PC施工分科会**（37.7.27）出席者：国分委員長，菅原主査，松野幹事，ほか委員8名。議事：1）エポキシ樹脂接着材の試験について。2）PC部材の接合剤およびグラウト材料としての Epoxy 樹脂について。3）建設省建築研究所のエポキシ樹脂接着剤試験計画について。4）市販ミキサの諸元用途特徴について 5）コンクリートの品質管理試験簡便法の比較試験示方書，各試験依頼団体への依頼文書案について。6）コンクリートの簡易管理試験器具の裏付け試験結果について。

（2）**耐震構造設計打合会**（37.8.1）出席者：久保幹事長，ほか幹事 10 名。議事：昨年まで3カ年間引き続いた構造物耐震設計研究委員会の今後の研究方針につき打ち合わせを行なった。

（3）**第3回文献調査委員会**（37.8.3）出席者：千秋委員長ほか委員および幹事 14 名。議事：1）外国雑誌の備付リスト作成について。2）土木学会に備付ける新規購入雑誌の希望について 3）学会に備付けるべき国際会議の論文集，地区国際会議の論文集外国大学の報文などの収集の重要性が指摘され，全委員一致で採択し，積極的に働きかけることにした。土木学会では世界の関係各学会に入会して関係論文を入手できるようにしておくべきであるとの希望意見が出され，全員一致その必要性を認めた。4）文献カード作成料金，抄録原稿料について。 5）委員会の運営について。6）他の学協会雑誌との抄録の重複掲載について。7）文献カードの作成について。8）その他。

（4）**水理委員会幹事会**（37.8.4）出席者：横田副委員長，ほか委員および幹事 11 名。議事：1）Escande, Daily, Grzywinski，教授の講演およびレセプションについて。2）河川災害に関する水理学のシンポジウムについて。3）第7回水理講演会プログラムについて。

（5）**異形鉄筋設計研究委員会幹事会**（37.8.6）出席者：村田幹事ほか3名。議事：異形鉄筋設計例示の取まとめを行なった。

（6）**本州四国連絡橋技術調査委員会 上部構造専門部会 幹事会**（37.8.7）出席者：国鉄側幹事6名，建設省側幹事6名。議事：1）示方書の検討。2）部会提出資料について。3）次回幹事会は部会長，西村，高田両委員をまじえた幹事会とする。

（7）**50 周年記念事業実行委員会**（37.8.8）出席者：荒井，ほか委員5名。議事：1）行事計画および概算について。2）実施機構および構成メンバーについて。3）その他。

（8）**第1回無筋コンクリート標準示方書改訂委員会**（37.8.10）出席者：国分委員長，樋口主査，山崎，長滝両幹事，ほか委員 25 名。議事：1）開会。2）委員長挨拶。3）委員の紹介。4）改訂を必要とする問題点の説明。5）今後の運営方針について。それぞれの担当によって資料を収集し，資料にもとづいて原案を作成した上で検討を進める。6）その他。

（9）**耐震構造設計打合会**（37.8.13）出席者：久保幹事長，ほか幹事8名。議事：1）昭和37年度研究計画について。2）その他。

（10）**第3回会誌編集委員会**（37.8.14）出席者：八十島，堺正副委員長，ほか委員 17 名。議事：1）投稿原稿の審査報告および新規受付原稿審査委員の決定。2）小委員会の議事報告。3）次回講座の内容を一応了承し執筆者に集ってもらい打合わせを行なう。4）各欄の担当責任者について。5）新規依頼原稿につきアンケートを求め順次検討し依頼する。6）回顧と展望記事の編集方針について。7）その他。

（11）**本州四国連絡橋技術調査委員会 上部構造専門部会 幹事会**（37.8.14）出席者：青木部会長，西村，高田両委員。国鉄側幹事7名。建設省側幹事6名。議事：1）第1回専門部会議題およびスケジュールについて。2）内規について。3）その他

（12）**異形鉄筋設計研究幹事会**（37.8.17）出席者：村田幹事ほか3名。議事：異形鉄筋設計例示出版のための最終打合せを行なった。

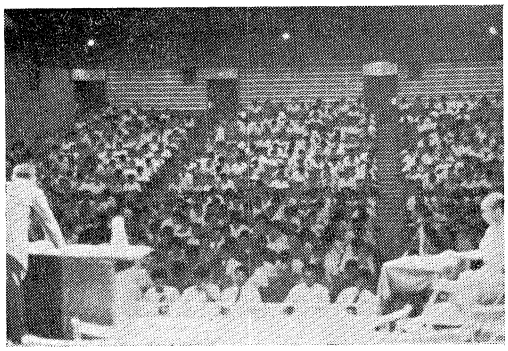
（13）**第56回耐震工学委員会**（37.8.20）出席者：那須委員長，ほか委員9名。議事：1）地震工学国際組織について。2）地震工学トレーニングセンターについて。3）国鉄委託研究について。4）国際大ダム会議提出論文について。5）国際会議提出資料について。6）委員の追加について。

◎その他

○学術講演連絡委員会設置打合会（37.8.8） 1） 出席者：末森専務理事，林 泰造，堀川清司の両氏。2）協議事項 内規案を作成した。

○昭和37年度夏期講習会（最近の基礎工法）期日：37.8.30～31日 場所：厚生年金会館小ホール 予定座席数 706 名に対し 930 名の参加を得て盛大に行なわれた。 2日間にわたる適当な

講 習 会 会 場



会場確保が非常に困難なため参加者に御迷惑をかけたことを深くお詫びする。

（8月 30 日）

開 会 挨 拶……藤井松太郎
基礎地盤の調査……三木五三郎
基礎施工法と土質……最上 武雄
鋼 ぐ い 基 礎……大崎 順彦
基礎工事の機械化……中島 武
軟弱地盤上の盛上築堤の基礎と基礎地盤の安定処理……竹中準之介

（8月 31 日）

国鉄新幹線の基礎……池原武一郎
名神高速道路の基礎……高橋 脩一
地下鉄施工法……西嶋 國造
ダムの基礎とその改良工法……村 幸雄
ダムの岩盤基礎……広田 孝一

なお8月30日（第1日目）講習会終了後つぎの映画が上映された。

①イ コ ス 工 法……帝都高速度交通営団提供
②静かなる建築工法……KK竹中工務店提供
③建設すすむ名神高速道路……日本道路公団提供
④高 速 道 路……同 上
⑤モ ノ レ ー ル……KK日立製作所提供
⑥英国式パイプロ杭打機……水野基礎工事KK提供

受講者の内訳は次のとおりである。

業 界	447 名	地 方 庁	120 名
建 設 省	16	地 下 鉄	8
東 京 都	32	学 校	20
道 路 公 団	23	運 輸 省	13
首 都 高 速	26	開 発 局	2
国 鉄	128	農 林 省	1
私 鉄	24	防 衛 庁	3
電 力 会 社	63	米 軍 基 地	4
		計	930 名

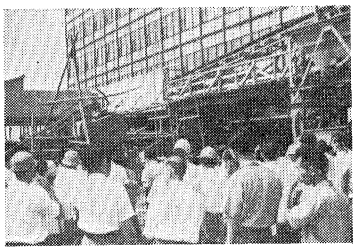
見 学 会（37.9.1）

a 班（東海道新幹線工事のうち，東京駅および神奈川県の現場）

新丹那トンネルも貫通して，いま東海道新幹線工事は急ピッチですすんでいる。9月1日朝9時土木学会前を3台のバスに分乗して出発した一行178名は，ただちに東京駅へ向う。ここで横山東京工事局次長，田中東京工事区長等の出迎えをうけ新幹線東京駅工事の全ぼうが見わたせる国鉄東京工事局新館の屋上へ案内された。東京駅における幹線工事の対象は，在来7番ホームと八重州本屋の間に2面のホームを新設し幹線用に充当する等新幹線のターミナル駅にふさわしい将来の東京駅，およびその施工方法につき詳細な説明をききすぐ構内の工事現場に向う。東京駅は1日約71万人の乗降客がある。これらの人々のさまたげにならないよう工事は細心の注意を払いながらすすめられている。

国鉄東京工事局屋上にて

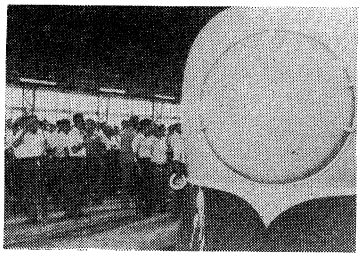
東京駅八重州口にて



工事現場の囲の中へは普段は入れないため一般乗降客がわれわれと一緒に工事を見ている。10時40分工事現場を一巡した一行はすぐバスに乗り込み大林・鹿島両社の心づくしのジュースのサービスを受け次の目的地湘南平に向う。バスは品川から五反田へと第二京浜国道沿いにすすむ。大崎では最近完成した横断歩道橋がまず目につく。途中国鉄東京幹線工事局次長高橋・久保村の両氏および牧野技師よりそれぞれのバスに分乗していただき新幹線工事の建設までの経緯および工事状況等につき詳細な説明を受ける。信号待ちが無くなったと思ったらバスはいつのまにか横浜からバイパスに入っている。ここからは快速度で走り藤沢の杉並木あたりでは，バスガイドの案内にも熱が入る。目的地湘南平着13時15分，ただちに中食，ここで小高い丘の上から新幹線工事を一望に見渡し現場の人から説明をきく。13時50分湘南平を出発し砂利道をほこりをかぶりながらバスは弁天山トンネルをめざす。途中にでき上ったモデル線区が強い太陽の光をあびてまぶしく目につく。弁天山トンネル鴨宮口でバスを降り立松主任より軌道の説明をきく。線路上に立つと延々と真直ぐにのびた二本のレール，広い軌道が力強く感じられる。この辺はすでに試験車が走っている。現場でつぶさに見ると この工事がいかに大工事であり，いかに慎重に行なわれているかがよくわかる。軌道では二重弾性締結，ノーズ可動分岐器等が目につく。ここを15時30分出発，鴨宮車庫へ行く。ここには試作車両6両があり，スマートな車体は色彩とともに印象的である。ここで広田主任より車両について説明をきき車内に入る。運転台は自動制御だから計器やスイッチ類が沢山ならび速度計には 250 km まで目

弁天山トンネル付近にて

鴨宮にて車両を見学する一行



盛が刻んである。車内は窓も大きく非常に明かるい。シートは5人掛けのほかに4人掛けのものもあり，それぞれの車両によって内部構造が異なり，これからいろいろなテストが行なわれ2年後には快適な乗心地で東京・大阪間3時間の旅が現実となる。16時予定の見学コースをおえた一行はバスに乗り込み一路東京に向う。18時40分無事東京駅着解散。本見学会に特別の御高配を賜わった国鉄新幹線東京工事局および東京工事局，局長以下係員の皆様および株式会社大林組，鹿島建設株式会社東京駅駐在の皆様に厚く御礼申上げます。

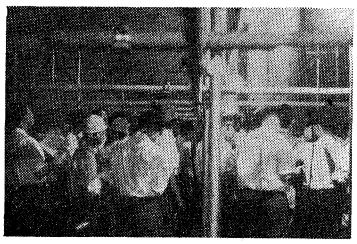
b 班（首都高速道路，地下鉄工事現場および羽田空港モノレール建設予定地）

集合地の土木学会前には，定刻前より，見学会参加者が続々とつめかけて，熱意のほどがうかがわれる。9時10分首都高速の角田技師ほか2名の説明者の来着とともに見学者143名はバス3台に分乗直に出発。朝の冷気いまださめやらぬ神宮外苑を通り抜け，高速道路4号線に沿って千駄ケ谷より代々木付近までの間，車上より建設中の巾員16m，メタルボックスタイプおよびPC連続桁による高架高速道路を見学，反転して，信濃町駅付近における半地下式構造の工事現場，さらに進んで紀の国坂より，赤坂見付付近の外濠中に施工中の基礎工事をながめつつ平河町を経て三宅坂に向う。途中三宅坂付近における高速道路3号線4号線の地下インターチェンジ（規模本邦最大にて総工費12億円）の説明をききつつパレスハイツ跡に到着。一同下車，大規模なる地下工事に目を見張る。折からの残暑に，汗を拭う暇もなく出発。自動車のラッシュの中を縫って霞ケ関，三田，札ノ辻を経て芝浦の東京水産大学前より高速道路1号線の見学にうつる。汐留まではほぼ完成に近く，海岸通りに延々と連なる巾員16mの高架道路は正に一偉観である。高架道路下の舗装道路を快走しつつ各種各様の工法を見る。地理的条件，また設計上の改良によりPCラーメンまた鋼ラーメンの橋脚あり，また上部構造に至っても，フレシネ，BBRV，レオンハルトの各工法にもとづくPC連結桁が用いられ，浜松町より汐留に至る区間には鋼合成桁が用いられている等それぞれ技術の粋を競った感がある。

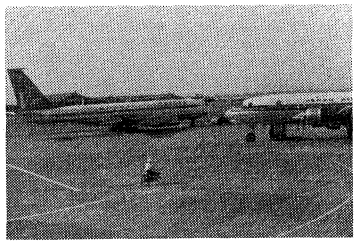
三宅坂パレスハイツ跡高速道路
4号線インターチェンジ現場

汐留より再び都内の混雑をわけて，旧築地川を利用せる，半地下式工事を見学，時勢の推移にうたた感慨無量。江戸橋より日本橋川，外濠川中に建設中の基礎工事を車上より見つつ，河川の流速，舟運に支障なき様，位置の決定をされた苦心談を伺いつつ，中央気象台前に到着する。すでに御待ちを願っていた，帝都高速度交通営団の阿子島副所長他職員の方の出迎えをうけ，それらの方々の案内により営団施工中の地下鉄日比谷線の八丁堀駅着，道路より狭い通路を降りて構内に入る。島式停車場のプラットホームに乗降客の混雑をさけて，支柱を中央に一列に配置したのが特徴である。営団の心尽しのクリームに咽を湿しつつ，高速道路1号線高架下を過ぎ13時芝浦の芝浦園着。首都高速道路公団第一建設部の御ほねおりにより，準備万端整える，豪華な広間にて昼食。暫時の休憩後元気を回復し，同所出発一路羽田国際空港に向う。14時45分空港着，ただちに展望台に上り涼を入れて休息する。日立モノレールコンサルタントより心づくしの冷たい飲物に渇を医し，眼下に発着する各国の飛行機を飽かず眺めるうち，定刻の16時30分となり，一同空港ビル内映写室に参集し，滝尾日本高架電車KK常務より，羽田一新橋間のモノレール建設計画につき説明をうける。引き続き日立モノレールコンサルタントより提供のイタリー，トリノ市のモノレール建設状況，愛知県犬山市におけるモノレール利用状況のカラー映画を観賞新しき時代の交通機関としての登場に期待をかける。17時40分，羽田空港の暮色をあとに，京浜国道を一路東京駅に向い，18時30分丸の内東京駅前着，滞りなく有意義なる見学を終えて解散する。

地下鉄八丁堀駅構内見学



羽田空港風景



終りに，今度の見学に当り，御高配を賜わった，首都高速道路公団，帝都高速度交通営団，日本高架電鉄KK，および日立モノレールコンサルタント，ならびに御多用中それぞれ現場の説明にあたられた方々にたいし，深甚なる謝意を表します。

○第12回応用力学連合講演会（37.96～8）東京大学工学部2号館大講堂および教室，参加人員延べ1000人

土木学会関係講演者：

a）特別講演　最近の土質力学　東京大学教授　最上武雄

b）一般講演　19名　懇親会参加者　31名

支部だより

◎関西支部

（1）第4回幹事会（37.8.20，土木学会関西支部事務局）出席者：矢野支部長，ほか幹事11名。

◎西部支部

夏季講習会（37.8.23～24）

場所　大分県玖珠郡九重町飯田小学校　参加者　178名　講演9題

見学会　別府阿蘇道路工事

講習会前日の22日，台風13号が九州地方を襲い，大分県沿岸を通過したため，開催場所の九重付近は雨と風が強く，講習会当日の天候が危ぶまれたが，幸い両日とも好天に恵まれ，各講師の講演にも熱が入り，講習生一同，高原の冷気を吸いながら，終始熱心に聴講し誠に盛会であった。

編集後記

学会誌を毎月すこしづつ早めに発行する計画も，どうやら軌道に乗りはじめてきました。この調子ですと新年号は12月20日頃にはお手許へお届けできることになり，前月発行の悲願？が達成できそうです。

原稿の刷上りページは6ページを厳守したいと考えておりますが，依頼原稿の場合はなかなかむづかしい問題があります。しかし多くの記事を多彩に盛り込みたいので，今後は極力最高でも6ページを厳守したいと考えています。12月号には「1962年の回顧と展望」と題して，各分野の簡単な紹介記事を編集委員がまとめることになりました。学会あたりでなければ，なし得ない企画だけに，慎重に進めたいと考えています。

新年号あたりから会誌の内容をかなり改めてゆきたいということが編集委員会の話題に上っています。表紙，組み方，活字レイアウト，内容など，細かく分類して解析し，読みやすい会誌をつくる努力を続けたいと思います。

会誌をよくするためには，経費も非常にかかります。会費のお払込みは早目に，そして新しい会員をどしどし御紹介下さい。こういう役に立つ会誌を出している学会に入らなければ損だ…というような会誌を発行したいものです。東京オリンピックの年すなわち1964年は，わが土木学会にとっても記念すべき創立50周年にあたります。その時までに少なくとも20000名の会員と年間予算1億円という規模の大学会に育てあげるよう皆様の御協力を切望してやみません。　［編集部　岡本・記］

CIVIL ENGINEERING IN JAPAN, 1961 の頒布について

日本の土木工学の現状を広く海外へ紹介する目的で，土木学会海外連絡委員会が総力をあげて編集にあたった本書は，海外渡航者，外人来客への贈呈として非常に価値のあるものと信じます。残部が多少ありますので希望者は至急お申し込み下さい。

内　容：本誌47巻5号74～75ページ参照
体　裁：A4判　口絵16ページ（アート），本文80ページ（真珠アルトン），広告26ページ（アート），豪華デザイン，上製本
頒　価：700円（送料とも）10部以上のまとまったご注文は特別なご相談に応じます。

会員入退会について（昭和37.8.1～8.31）

1. 入　会　72名（正63　学4　特1.C 2　特1.D 3）
2. 復　活　8名（正）
3. 退　会　26名（正25　学1）
4. 死　亡　6名（正）
5. 転　格　6名（学→正）

特別員の入退会（昭和37.8.1～8.31）

入　会	昭和37.8.27	特1.C	東海興業KK	東京都
	〃 8.1	〃	日本技術開発KK	〃
	〃 8.6	特1.D	KKアルス製作所	徳島市
	〃 〃	〃	釧路市役所	釧路市
	〃 8.7	〃	KK日本製鋼所	東京都

会員現在数（昭和37年8月31日現在）

名誉	正員	学生員	賛助	特級	特1.A	特1.B	特1.C	特1.D	特2	計	(増)
47	13 304	1 318	30	15	15	29	156	237	20	15 171	(48)

名誉員	村山喜一郎君	住友金属工業和歌山水道局顧問	昭和37.7.31	死去	78才
正員	杉　広三郎君	帝都高速度交通営団技術顧問	〃 37.8.11	〃	79才
〃	松尾成喜君	KK柴田建機研究所工事部技師長	〃 36.12	〃	56才
〃	中村安治君	愛知県水道建設事務局工事課	〃 37.7.23	〃	52才
〃	松尾次六君	KK奥村組	〃 37.8.6	〃	62才
〃	藤岡　昇君	神戸市建設局西部建設事務所	〃 37.6	〃	40才

昭和37年10月10日印刷　昭和37年10月15日発行　土木学会誌 第47巻 第10号
印刷者 大沼正吉　印刷所 株式会社 技報堂　東京都港区赤坂溜池5番地
発行者 末森猛雄　発行所 社団法人 土木学会　東京都新宿区四谷一丁目
定価 200円（送料20円）　振替 東京 16828番　電話 (351) 5130・5138・5139番

河川水利調整論

新沢　嘉芽統著

治水・発電・上水道・工業農業用水からの要求に対して合理的な調整策のないことは，わが国の河川の総合的開発利用の大きな障害となっている．本書は従来の事例を分析し，社会経済の発展に則して水利計画の基本的な考え方を提示する．利根川・淀川・木曽川その他多くの実例につき総合調整の問題点を明らかにし，調整の方途を示す．　A5 520頁 1300円

内容　**序論**　対象と方法　**第1編**　河川改修と農業水利の調整／第1章　流路の単純な整正に伴う調整／第2章　流路の変更に伴う調整／第3章　内水排除河川の改修と開発の相互規定性／第4章　洪水調節地の設置に伴う問題　**第2編**　発電・上水道・工業用水と農業水利の調整／第1章　水力発電の影響／第2章　上水道・工業用水との調整　**第3編**　河川総合開発における水利調整／第1章　多目的ダムの必然性／第2章　多目的ダムの機能／第3章　ダム建設の阻害要因／第4章　河川下流部の利水治水の関係／第5章　ダム下流の発電と他の利水の調整／第6章　河川下流における利水の調整／第7章　水利権の経済的基礎

物部水理学

本間　仁・安芸皎一編

土木工学関係の宝典として長く名声を博した故物部長穂博士の名著‘水理学’の新生版．ここに博士直系の俊秀の数年に亘る労作がみのり，故博士の名を冠して再び技術関係者の座右に贈ることになった．今日における水理学の急速な発展と，国の内外に高まっている水利事業の実状に照し，旧著の構想を生かしながら内容を一新した．B5上製函入　670頁　1800円

内容　第1章　水および液体の性質／第2章　静水圧／第3章　液体および水槽／第4章　水の流動に関する基本定理／第5章　比エネルギおよび射流／第6章　開水路の流速／第7章　水路の断面形／第8章　水路における種々の損失／第9章　管水路の水理／第10章　オリフィスと水門／第11章　せき／第12章　背水その他の不等流／第13章　開水路の不定流／第14章　流量測定／第15章　流水の圧力および水力機械／第16章　管水路の水撃圧／第17章　水槽内の水面の振動およびサージタンク／第18章　流体力学概論／第19章　波動／第20章　地下水の運動／第21章　河川の流出／第22章　土砂の移動／第2章3　洪水／第24章　密度流

河相論	安芸皎一著	B5	208頁	550円
応用ポンプ工学	寺田　進著	B5	338頁	1000円
材料力学	小野鑑正著	A5	426頁	1400円
耕地の区画整理	新沢嘉芽統 小出　進著	A5	400頁	近刊

岩波書店　東京神田一ツ橋 振替東京26240